いわむろ

発行所　岩室村役場
印刷所　巻・北洋印刷K.K
No.93

休日にケガしたら

1月1日	元　旦	巻町	桑原医院	2—2221
4日	第1日曜日	吉田町	県立吉田病院	3—3131
11日	第2日曜日	巻町	巻病院	2—3111
15日	成人の日	巻町	川口医院	2—2407
18日	第3日曜日	吉田町	県立吉田病院	3—3131
25日	第4日曜日	分水町	本間医院	2350

年頭にあたって

村長　横山喜八郎

一九七〇年の新春を迎えるに当り心からなる御祝の御祝詞を申上げます。

そして本年も昨年以上の前進の年であるよう御祈りすると同時に村民の皆様に対し心からなるご理解と御協力を御願い申上げる次第であります。

さて近次、一九七〇年は安保改定に伴い沖縄返還、大学紛争、そして国民総生産世界第三位としての、対外的役割又は情報化社会への飛躍的進展等々の諸問題がからみ日本の世論は将に重大な転機に立つであろうと予想されておりました。

然し、六九年末期になり佐藤首相訪米に依る沖縄本土並七十二年に返還の決定を見、大学紛争は除々に冷静さを取戻しつつ新春を迎えた事は我が日本の将来に大いなる光明を与えた証拠であろうと信じます。更に目を我が膝下に移す時農業政策の流転はめまぐるしく社会福祉政策の重要さは更に其の度を増し人間性の回復を叫びそれ等につれ、世はレジャー化への道程を猛進しつつあるわけであります。又他方文明の進展生活環境の変化に伴う多くの公害特に交通戦争に至っては年間延百万人に近い死傷者の続出、過密過疎対策の考究等来る可き人類の極致を行くであろう二十一世紀を前にして幾多の諸問題が山積しているのであります。

我々は常に沢山の学者が申して居るように二十一世紀は日本の時代であると云われておりますものの其処には世界の平和社会をリードする日本の輝かしい挑源を予想される反面其の過程に於て幾多の諸問題解決の課題がある事に思いを至さねばならないのであります。これ等の問題点を追究し解明し解決してこそ、夢に見る彼方に到達する事ができると云われましょう。

それには幾多の困難と忍耐そして不撓の努力が絶対必要の事は申上げるまでもありませんが、国民総力の英智の結集こそ希求されるべき何物もありません。

依ってこれら我が日本をとりまく国内外の諸情勢に合わせ本村行政のポイントとして本村発展を期さるるものと信じております。

特に最近農業に対する農民各位の不安は言語に絶すると云われておりますが、何時如何なる時点に於ても経済成長に於けるひずみの派生は古今、洋の東西を問わずみられる現象であります。それ等は生を受けた総べての生きとし生けるものの悩みであり其の逆境に打ち克ってこそ、人間としてめねばなりません。

曰く社会福祉政策の向上、人間らしい人間としての生活向上を求め、あらゆる分野に於て其の時代〳〵にピントを合わせ即応態勢の確立にあります。

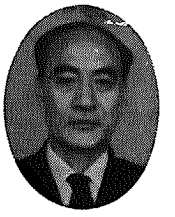
先づ何としても道路の改良舗装を完遂しなければなりません。最近政府は広域市町村圏及生活圏を提唱し我が岩室村も三条、燕圏の一角を占有し新しい角度で本村発展の秘策を練る可く渾身の力を振絞って居るわけですが、今春四月十八日を以て開業されるであろう弥彦山スカイラインを中心として湯の香高い岩室温泉郷としての活躍を見出し、しかも世は将にレジャー化の一路にある現時点を考究し其の対策検討それらを即実行化する行動が早急に叫ばれて居るものでありますが、これ等の諸施策は村観光行政だけでは其の自治体の制限により自ずと限度があります。従って去る昨年十月十九日村民各位の絶大なる協賛を求め岩室観光開発株式会社の半官半民のより自由的な観光会社の設立を見たわけであります。今後本会社が村民の期待通り我が岩室村観光行政の一翼として本村と共に飛躍的な発展を期さるるものと信じております。

特に最近農業に対する農民各位の不安は言語に絶すると云われておりますが、何時如何なる時点に於ても経済成長に於けるひずみの派生は古今、洋の東西を問わずみられる現象であります。それ等は生を受けた総べての生きとし生けるものの悩みであり其の逆境に打ち克ってこそ、人間としての資格があるものと思います。しかもいろいろと叫ばれて居るものの其の時点々々の早急な解決こそ必要であり、これ等に自らをしったし、真けんに対所するこそが現代に生きる姿でなければならないと思います。

新春を迎え漸くめざめようとする時、日本海から寄せる寒波は更に激しさを増してまいります。しかし、其の後に来るものはのどかな陽春であります。激動する流れに抗しつつあく迄我等の郷土岩室の前進を計り今後打出されるべく新しい施策を求め洋々たる前途を夢にいがき村民各位の更に団結と協調を懇望し又、我が故里を遠く離れ本村発展の重責を負い村外各所に御健斗されて居る皆さんの御多幸を祈り新年の御挨拶といたします。

年頭の所感

議会議長　本間十郎



年頭所感を村民の皆さんに求められ、「何もありません」と嘘になり「我年頭に感あり」と大見えを切れば嘲わらわれそうだ。ほんの一こと二こと感ずるまま人間お互い仲よく暮せたらと思う。世界中が日本中がみんな仲よく、それが駄目なら、せめて岩室村中の人間だけでもが仲よく……と私は思う。お互いに蔭口をたたき合っても、角つき合っても、肩いからして張り合っても、一年は三百六十五日、一日は二十四時間、どうしたって一年が三百六十七日に、一日が二十五時間にはならない。それよりか岩室村中の人間がこの一九七〇年をこの上とも一層仲よく譲り合って気楽に暮せたらと、しみじみ私はそれを思う。そうなれば「ゲバ棒」も「安保」もなんのそのである。といってのべんべんくらりんとぼんやりは決してない。私は私の営業の製菓業を含めて一切の岩室村の生産業の全部が前向きの姿勢で大いに向上する様に、お互いが命がけでがんばらねばならないと思っているしきっとがんばるつもりだ。いや村中の産業経済だけではない。教育文化も、特に最近は地に捨て忘れられがちな義理人情道義の面も、村の全生活がどの面もみんな前向きに向上発展することを切望してやまない。それには、近頃のはやり言葉である「断絶」一之をなくすることも忘れられない大事な一面だと私は思う。村当局と村民成人と青年当局派だと思って居る人と反当局派だと思って居る人、親父と息子、ていしゅとかあ、事業主と使用人。あげて見ればきりがない。近頃の様に、世のうつりかわりのはげしい時代「断絶」はいたる処にころげて居る。かって凶刃にたおれた政治家、原敬は云う。「話せばわかる」とそうなのだ、話せばわかるのだなかなか容易からぬわざではあるが話し合わねばならぬのだ。腹を割って話合わうではないか。そうすればきっと前むきで日蔭げのないお互いが仲よく暮せる岩室村の将来は夢ではないはずだ。決して夢ではないと私は固く信ずる。村の当局にはそうした村行政をお願いするし私達議会人はそうした村政がどうしたらうまく行なわれるか真剣に考えて行動したいと私は想います。